

植樹式 2002



時の蘇生・柿の木プロジェクト

目次

2020年更新

2月17日		高知県立美術館 日本・高知県・高知市	1
2月23日		高森町丸山公園 日本・長野県・下伊那郡	2
2月25日		ノースウエスト高校 アメリカ・メリーランド	3
2月27日		ヘイウッドバーンズ環境教育センター アメリカ・ニューヨーク	4
2月28日		ドラパーミドルスクール アメリカ・ニューヨーク	5
3月13日		グラスゴー植物園 イギリス・スコットランド・グラスゴー	6
3月15日		ネイチャー・イン・アート イギリス・グロースター	7
3月		ブリックタウン・メモリアル高校 アメリカ・ニューヨーク	8
		大垣市立北小学校 日本・岐阜県・大垣市		
		大垣市立青墓小学校 日本・岐阜県・大垣市		
		大垣市立中川小学校 日本・岐阜県・大垣市		
		大垣市立川並小学校 日本・岐阜県・大垣市		
		大垣市立北中学校 日本・岐阜県・大垣市		
		大垣市立星和中学校 日本・岐阜県・大垣市		
		太平洋工業株式会社 日本・岐阜県・大垣市		
		西濃運輸株式会社 日本・岐阜県・大垣市		

高知県立美術館

🇯🇵 日本
📍 高知県・高知市
🌱 2002年2月17日



2001年7月20日から9月16日に開催された『「時の蘇生」柿の木プロジェクト in Kochi』展から始まり、高知県立美術館では植樹まで、関連企画「脱落の道から柿の木まで」、「手作り楽器ワークショップ」など数々なイベントが行われました。

植樹式当日は、小雨のため、エントランスホールで植樹式は開催されました。親子連れ約30人が参加。海老沼先生の挨拶ののち、ワークショップ参加者で構成されている「柿の木音楽隊」の演奏が行われました。演奏には、2001年12月と2002年1月に行われた「手作り楽器ワークショップ」で制作されたフエ、ドラム、カキンバ、ヒョウキンなどの楽器が使われました。柿の木カリンバなどの手作り楽器の音が響きわたり、柿の木は美術館敷地内の緑地に植樹されました。柿の木のプレートはワークショップを行ってくれたアーティストの西悟さんによって制作されています。



高森町丸山公園

🇯🇵 日本

📍 長野県・下伊那郡

🌱 2002年2月23日

高森町は果樹の実る町。この町の町木は「柿の木」です。特に干柿の「市田柿」発祥の地として有名で、どの家にも柿の木が植えられ、干柿が吊るされています。町の子どもたちが小さな頃から親しんでいる柿が平和と結びつきました。高森町は平和への意識が高く、毎年、広島へ平和バスを派遣しています。対象は小・中・高校生と一般の方も加わります。平和バスの出発式が行われる丸山公園に、1995年、広島の被爆2世のアオギリが平和推進委員の手によって植えられました。積極的な平和への取り組みが行われている高森町の町長、吉川貢さんが子どもたちの平和学習の為と植樹を希望されました。

植樹式は教育委員会、公民館の方々がコーディネートをしてくれました。海老沼正幸先生も長崎から招待され、町の関係者、南小学校、北小学校、中学校の子どもたちの計90名が参加。式

典では子どもたちにより高森町の平和の歌「わたしのふるさと」が披露され、植樹は小学生と中学生のそれぞれが2本の柿の木を植樹しました。



8月5日、高森町丸山公園で「平和を願う、柿の里高森・広島平和バス出発式」が行われました。柿の木のそばでコカリナの演奏が行われ、地域の方々と子どもたちを乗せた平和バスは広島へ出発しました。植樹から5年経った2007年、成長した柿の木には3つの実がなり、その翌年の2008年には200個もの実をつけるほど成長しています。



ノースウエスト高校

 アメリカ

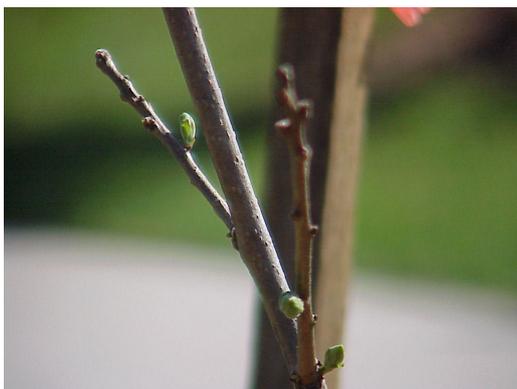
 メリーランド州

 2002年2月25日



ノースウエスト高校はワシントンDCから車で45分の街、ジャーマンタウンにあります。柿の木はノースウエスト高校のメディアセンターの前庭に植樹されました。出来て3年目の新しい学校。高校のクラブ活動の1つであるピースクラブは世界的にも珍しいクラブ活動です。今回はクラブの先生の想いでプロジェクトが実現しましたが、企画はピースクラブの学生とPTAが主体となり、自主的な運営で進められました。

式典では、学生オーケストラがアメリカ人作曲家ダニエル・バクヴィッチの交響曲第1番「ドレスデン1945年追悼」を演奏。この曲は第二次大戦末期のドレスデン爆撃を題材とした曲。高校生にしてはとても難しい曲とされるのですが、プロジェクトの背景を理解した上での選曲でした。また君が代の合唱、カラーガード行進などもありました。植樹のとき、アニー・アルバグリさんのお母さんがメッセージを披露。月夜の下、参加者が柿の木を囲んで手を繋ぎ、「私たちは1つ」と訴えました。一服の絵のような植樹式。とても純粹で美しい植樹式となりました。



ヘイウッドバーンズ 環境教育センター

🇺🇸 アメリカ

👤 ニューヨーク

🌱 2002年2月27日

ヘイウッドバーンズ環境センターは、NY州の州都であるアルバニー市内にあるNPO団体です。貧しい人々を対象とした教育や生活改善のさまざまな事業を積極的に行っています。また、市内にある「チボリ公園」の池が汚染されていることを知り、子供の安全のための改修・改善を行政や関係企業へ働きかけています。2年後、このチボリ公園にピースガーデンを作り、そこへ柿の木は植樹される予定です。このプロジェクトは柿の木を植え、地域の貧しい人々の精神的な支えにしたいという願いが込められています。

植樹の中心者は、ヘイウッドバーンズ環境センターのピーター・シェーナムさんです。彼はドラパー中学校のマリアム・マイヤー先生に柿の



木プロジェクトのことを紹介され、植樹の申し込みをしました。マリアム先生は、ヘイウッドバーンズ環境教育センターのボランティアでもあります。今回、ドラパー中学校とヘイウッドバーンズ環境センターの2カ所はお互いに協力しあい、植樹準備をすすめてきました。



植樹式に先立ち、地域の子どもたち50人と一緒に折り紙ワークショップが行

われました。また、子どもたちの手で巨大な横断幕も制作されました。式典はタングさんの胡弓演奏から始まり、戦争を経験したことのあるアントン・セゴール（ホロコースト生存者）さんがドイツで体験したホロコーストの話をしてくれました。アメリカでは外国からの植物は2年間ポット植えてなければ地植えできないため、式典では柿の木の贈呈とセレモニーのみが行われました。今後も、柿の木を使って、教育の貧困なこの地域の子どもたちへ平和を伝えるため、今後も積極的な活動を続けていきたいと話していました。

ドラパーミドルスクール

🇺🇸 アメリカ
📍 ニューヨーク
🌱 2002年2月28日



ドラパー中学校はNY州の州都アルバニーから北へ車で20分くらいの街スケネクタデーにあり、公立高校も併設する大規模な学校です。ドラパー中学校のマリアム・マイヤー先生が柿の木プロジェクトの実施を学校に提案し、同僚、3人の先生が代表となり申し込みを行いました。

式典前日、マリアム・マイヤー先生が顧問をしている「平和を考えるクラブ」の生徒30人は折

り紙ワークショップを行いました。また合わせて横断幕も作りました。

ドラパー中学校に隣接する高校の講堂での式典は圧巻でした。音楽演奏から始まり、原爆の話と柿の木プロジェクトの紹介（コンピュータイメージで作成）、生徒のジャズバンド演奏、高校生ダンスチームによるダンス、実行委員の挨拶が行われました。柿の木はポット植えのまま植樹、「平和を考えるクラブ」のメンバーで土をかけていきました。1000人を超える生徒の参加者、そして、3人の先生の情熱で式典は大成功でした。これには、マリアム先生と彼女の子供が作ったコンピュータイメージの柿の木の説明イントロダクションの素晴らしさがありました。このイントロダクションは「サダコの話」や、広島・長崎の資料館からの写真も使って、子どもたちの興味をひくように非常に分かり易く作ってありました。この映像を見て涙ぐむ子もいて、式典終了後は、多くの子どもたちが、壇上かけより、柿の木を見て、握手を求めてきたりしました。9.11のテロにあって、子どもたちは被爆の恐ろしさや痛みを理解できるようになったのかもしれませんが、学校の入り口に飾られた、テロ後に送った実行委員からのメッセージがそれを物語っているようでした。午前中すべてを使っての全校生徒の参加も珍しく、学校長に働きかけて実現した3人の先生たちの行動力に感動しました。

グラスゴー植物園

🇬🇧 スコットランド

📍 グラスゴー

🌱 2002年3月13日

グラスゴー植物園は市内の西部中心街に位置しています。植物園は市民にとって憩いの場所となっています。現地中心者のジェリー・ルースさんは、詩人であり、植物園では「ポエット・イン・レジデンス」という立場で、さまざまなイベントを企画しています。2001年春、日本を訪れた際、柿の木プロジェクトの事務局を訪問してくれました。

グラスゴーの植樹式当日は曇りつない晴天に恵まれました。参加者の年齢層は幅広く、お年寄りから子どもまで参加しました。時間になると続々と参加者が集まり始め、犬連れの人や車椅子に乗っている人も気軽に参加してくれました。ジェリーさんの努力により、グラスゴー市内のいろいろな学校を巻き込んだ多彩なパフォーマンスが展開されました。

特にスピーチ直後に行われた、心身障害者の方々と一緒にギターの演奏に合わせてうたった唄は、

とても自然なかたちでみんなが参加できた素晴らしい企画でした。ダンスパフォーマンスや太鼓実演、太極拳のパフォーマンスがあり、1時間のセレモニーはあっという間に過ぎてしまいました。パフォーマンスは内容の濃いものばかりで、特にラリー・ブトラーさんの太極拳のパフォーマンスは人と大地の繋がりを実感できるもの。また朗読は日本にはない民族問題を露出させたものでした。

柿の木の植樹場所は日当たりがよく、小高い丘の上であり、公園全体を見渡すことができるよく目につく場所でした。植樹式の後、柿の実折り紙を教えたところ、6月のワークショップで実施するとのことでした。式典には、イースト・パーク学校の児童、グラスゴー水産大学の学生、ヒルヘッド高校の生徒、ライジング・ドラゴン・タイチ、ピョチョ・タイコ、クリーブデン中学校の難民捜索者グループなど、地域の多数の団体が参加しました。



ネイチャー・イン・アート

🇬🇧 イギリス

📍 グロースター

🌱 2002年3月15日



ネイチャー・イン・アートは自然をテーマにしたアートを専門とする芸術センターです。アーティストのブルース・アレンさんはボルドーで柿を植えたシャンタル・ラッセル・ル・ローさんから「被爆柿の木2世」の話を聞き、チャーチャム小学校の子どもたちと2年越しで植樹プロジェクトを実現しました。

植樹式の前に実行委員はチャーチャム小学校を訪問し、あたたかく歓迎されました。遠い異国からの訪問者に子どもたちは好奇心いっぱいでした。その後、バスで植樹場所に移動。車中もイベントで盛り上がる元気な声で満たされていました。式典は「音楽の彫刻」でスタートし、ピオラ奏者のイアン・リチャードソンさんと子どもたちが手作り楽器を演奏しました。「柿インプレッション」と題したパフォーマンスでは芝生に型紙を置き、芝の色の差異で見事な柿の木が

出現しました。その後は、サーカスの火吹きパフォーマンス、子どもたちのメッセージの朗読と続き、柿の木が植樹されました。最後は、平和の願いを風船に託し、大空へ飛ばしました。

2003年にはブルースさんの友人がすむグルジア共和国で植樹が行われ「被爆柿の木2世」を通じて国境を越えた新たな交流が生まれています。



ブリックタウン・メモリアル高校

 アメリカ

 ニュー・ジャージー州

 2002年3月

ブリックタウン・メモリアル高校は14歳から18歳までの公立校で、生徒数1800人から2000人の巨大な学校です。現地事務局代表のデヴィッド・シーギルト先生は若く、エネルギッシュな青年で、高校の生徒たちの精神と身体のカウンセラーです。ダラスで植樹したディー・メイズ先生が柿の木プロジェクトのことを紹介した教育雑誌でこのプロジェクトを知り、申し込みを行いました。

植樹場所は高校の近くの公立公園に地植え予定（3月中に）。ここは、管理も安全も確保されているところ。学生もいつも行く場所です。また、市民も自由に見ることが出来ます。巨大な学校ゆえ、伝達やコンセンサスを得るのに時間がかかり、そのため、植樹式が予定より遅れました。柿の木は宮島がニューヨークでデヴィッド・シーギルト先生に手渡しました。

後日デヴィッドさんから連絡があり、柿の木は学校の学生が管理をしているとのことでした。環境の変化もあり、数ヶ月後に1本が枯れてしまいましたが、もう1本はとても力強く育ち、新しい枝と葉をつけています。近所の人を楽しめるように根元に名盤をとりつけたとのことでした。